

新しい時代に相応しい明専会事業

〓 会員サービス、終身会員制度、大学・学生支援 〓

明専会会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとうございます。

令和最初のお正月を迎え、正会員

はじめ各位の皆様におかれましては、

新しい希望を抱いてのスタートで

あったこととお慶び申し上げます。

令和になった昨年は、日本列島は

大変な自然災害の年になりました。

特に、8月の九州北部豪雨、9月の

台風15号と19号は、想像をはるかに

超えたもので多くの方が被災されま

した。

一方、日本を取り巻く国際情勢は、日韓関係、米中関係、北朝鮮問題など、いずれも改善を見ないまま推移し、不安を抱えたまま年を越しました。

そんな中、秋のラグビーワールド

カップでは、日本は大いに盛り上がりました。日本人がこんなにもラグビーが好きだったのかとびっくりするほど燃え、「ワン・チーム」が流石に流石になったほどでした。これに倣って、明専会の「絆」が、まさに「ワン・チーム」のようになることを夢見ながら、今年も会務に精進する覚悟であります。

その明専会の「絆」の強化は、会員サービスの一環として最重点課題として取り組んでおります。平成28年から3年間を特別強化期間とした「学生」、「若手」、「女性」の明専会への帰属意識向上活動は、大いなる進展を見ることができました。学生、若手、女性会員との絆はかつてないほどに強くなり、その結果、明専会報や明専会HPには、学生、若手、女性会員の活発な活動記事が紙面を賑わすことになりました。代議員および本部役員（理事・監事）の割合が、それぞれ全体の約10%を占める

ほどになったことも、明専会の歴史の中では大きな変化であります。こういった動きをさらに加速させるためには、若手会員数をもっと増やしていかなばなりません。しかし、新卒者の正会員入会者が何十年にも亘って減少し続けてきております。何としてでも減少傾向に歯止めをかけ、一気に増加に転じるための策として、昨年度より新しい終身会員制度を導入しました。従来は65歳以上の正会員に限って終身会員になれる特典を付与しておりましたが、今後は学生を含むすべて会員に終身会員になれるように改定致しました。これにより、学生や若手の正会員に入会数が大きく増加してきており、これは今回の改革の成果だと言えるでしょう。

昨年に実施したもう一つの特記事項は、明専会報のWEB配信化であります。これにより、いつでも、どこでも、容易に明専会報を閲覧することができるようになりました。WEB版明専会報へのアクセス数が上昇してきております。平成時代の会員がマジョリティを占める明専会に相応しいコミュニケーション・ツールになったと感じております。

さて、母校創立100周年（平成21年）

および明専会設立100周年（平成26年）

を契機に推進している明専会記念事業は、順調に推進してきており、大きな成果を挙げることができました。

その記念事業は10年間という期限の中で推進中ですが、あと数年でその期限を迎えることとなります。今後、

それらの事業が自立的に発展していくことを期待しつつ、明専会は次なる10年間の新たな事業の検討を開始してまいります。昨年立ち上げた「2020事業検討委員会」で協議を行なった結果、次の4つの事業に特化する方針を固めたところであります。

- ① 産学連携事業（COE拠点支援）
- ② 学生支援（明専スクール進化）
- ③ 国際ネットワーク構築
- ④ 絆の強化（明専トランプ）

現在、4つの小委員会において具体的事業計画を策定中です。令和2年度の定時総会でその方針をご説明し、皆様のご賛同の上、令和3年度より漸次切り替えていきたいと考えております。

末筆になりますが、皆様にとつてご多幸の年になりますようお祈りして、年頭のご挨拶といたします。

（いすゞ自動車・理事）

多様なネットワークを活かして 未来を創造する

九州工業大学 学長 尾家 祐二



新年おめでとうございます。

明専会および会員の皆様方には、
本学の教育研究活動への格別のご理
解並びに多大なるご支援を賜り、厚
く御礼申し上げます。

昨年は創立110周年を迎えました。
これを契機に、8月に東京大手町に
おいて「九州から発信する新時代の
産学連携」と題した「110周年記念
フォーラム」を開催し、250名を超え
る企業等の皆様にご参加いただき、
第2部の「感謝の集い」では、卒業
生の皆様及び日頃よりご支援いただ
いております企業の皆様方等に多数
ご参加いただきました。改めまして、
多くの皆様にご支援いただいております。

ますことに感謝いたします。

教育研究活動とは、未来を創造す
るために必要な人材の育成と必要な
知恵を生み出す活動であると理解し、
未来を見据えて大学の社会的価値を
高め、新たな価値を創造するために
「未来を思考する『モノづくり』と
『ひとづくり』」を推進しておりま
す。そして、多くの方々に共感を持っ
ていただける活動も併せて行ってい
ります。

まず、学生諸君は、昨年も学生プ
ロジェクトに積極的に応募し、令和
元年度は19件が採択になりました。
これまで、明専会様、安川電機様な
らびに千鳥屋本家様のご支援をいた
だいておりますが、令和元年度か
らは新たに、QTime様ならびに佐
電工様にもご支援をいただきました。
加えて2つのプロジェクトでは、ク
ラウドファンディングを実施し、多
くの方々のご支援を賜りました。学
生のこのような活動に関心、ご支

援いただき大変感謝しております。

教育の国際化につきましても継続
して推進しています。平成30年度に
は約70名の学生諸君が海外で企業イ
ンターシップを含め貴重な学習を
経験しています。平成29年のデータ
が公開され、学生の海外派遣率（国
立大）は、前年の5位から3位とな
りました。

研究においては、引き続き組織レ
ベルでの共同研究プロジェクトを支
援しています。これまで、台湾科技
大およびマレーシアプトラ大（UP
M）との間で組織的な共同研究を
行っていました。昨年から新たに、
マレーシアのペトロナス工科大（U
TP）並びに国立研究開発法人情報
通信研究機構（NICT）との間で
共同研究を開始しました。海外研究
者との共著の論文は年々増加し、国
際化が進んでいます。

また、キャンパス内で少し先の未
来を感じられるようにと、QTime
様と生協様のご協力を得て、戸畑
キャンパスに無人店舗を設置、今後、
教員や学生のアイデアでさらに発展
させたいと考えています。

入試につきましては、昨年初めて

本学以外の場所（大阪）で入試を実
施し、今年の秋には東京でも実施し
ます。18歳人口が減少する中ですが、
本学への志願者は増加し、偏差値も
上昇しております。さらに広い地域
から優秀な学生諸君が集まることを
期待しています。

就職につきましては、引き続き良
好な状況です。昨年3月に開催した
学内合同企業説明会では約700社の参
加があり、今年はさらに増える見込
みで、多くの企業の皆様に本学に関
心を持っていただいていることを嬉
しく思います。

さらに、百貨店の博多大丸様やR
KB毎日放送様などこれまで繋がり
がなかった企業様とも連携し、本学
の活動を多くの方に知っていただく
機会を大切にしております。

九州工業大学は、今後もこのよう
な学外組織との多様なネットワーク
を活用して、未来創造に貢献できる
人を育て、知恵を生み出し続けます。
最後になりましたが、皆様方が、
多くの良き機会に恵まれ、実り多き
年となりますことを祈念いたします。
今年もよろしくお願ひ申し上げます。